

まちの話題



●身近で楽しい話題、明るい話題待っています。



広報こまつしま 電話 32-3812

12/26

しめ縄づくり体験で世代を越えた地域交流

日本の伝統的な文化を学びながら、世代を越えた地域の交流を深めようと12月26日、芝田公民館（内藤尚則館長）でしめ縄づくりが行われました。

参加したのは、芝田小学校の児童ら16人。講師として地元の高齢者の方ら10人を迎え、用意した稲わらで縄をなう練習から始めました。

最初は、縄をなうのは難しいと言っていた児童らも、楽しみながら伝統文化を体験。見事なしめ縄をつくりあげました。



地元の高齢者の方に縄のない方を教わる児童ら

1/8

四国横断自動車道（小松島く阿南間）
田野地区設計協議合意で調印式



早期完成に向け協力を誓う稲田市長（右）ら関係者

四国横断自動車道の小松島ICく阿南IC間（約10km）のうち、小松島市田野地区（約2.8km）の設計協議合意により1月8日、市保健センター多目的室で調印式が執り行われました。

調印式には、地元住民や行政関係者ら約60人が出席。稲田市長が「四国横断道の完成は、地域に活力を促すことはもちろん、災害時の緊急輸送、救急救命時における『安全で安心なまちづくり』には必要不可欠な社会基盤です。関係する皆さんと連携

を深めながら、早期完成に向けて最大限の努力をしてまいります」とあいさつした後、田野地区対策協議会会長、国土交通省徳島河川国道事務所所長、飯泉県知事、稲田市長の四者により設計協議が合意に達した旨の確認書に調印がされました。

本市では、これまでに前原、田浦、新居見の3地区が調印済みで今回の田野地区で4地区目。小松島く阿南間全体では約7割で設計協議が合意に達したこととなります。

1/4~6

第55回記念徳島駅伝
中高生主体で挑み第4位入賞

新春の阿波路を駆け回る「第55回記念徳島駅伝」が1月4日から6日までの3日間、徳島県下一周の46区間281.9kmで行われ、15郡市が参加して健脚を競いました。

佐藤貢監督率いる小松島チームは、エース岩佐敏弘選手（大塚製菓の故障をはじめ、一般選手の故障や病気による欠場が相次ぎ、中高生主体でレースに挑みました。谷川浩樹主将（海上自衛隊第24航空隊）をはじめ、選手一丸となって力走、最後までメダル争いを繰り広げるなど昨年の第5位を



初日第19区で区間賞を獲得しゴールする十川選手



最長区間第41区14.4kmを力走する辻智史選手（陸上自衛隊守山）

上回る第4位に入賞しました。

特に、大西亮選手（小松島西高校）は初日第1区で、小松島チームとして3年連続となる区間賞をはじめ、2日目には7人抜きを演じるなど2区間で区間賞を獲得。優秀選手に選ばれました。同じく優秀選手に選ばれた、十川阿佑美選手（小松島西高校）も初日、2日目と2位に大差をつけ2区間で区間賞を獲得。また、谷川主将も初日に区間賞を獲得するなど、3日間で区間賞5つを獲得するすばらしい力走でした。